

令和6年度私立学校初任者研修北海道地区研修会実施概要
～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：北海道私立中学高等学校協会

会 期：令和6年8月8日（木）～8月9日（金）

会 場：札幌ガーデンパレス（北海道札幌市）

参加人員：39 名

参加対象者：北海道私立中学高等学校協会に加盟する私立中学・高等学校に新たに採用された教員（経験者でも可）及びそれに準ずる教員

【日程細目】

第1日 8月8日(木)

12:20	受付・資料配付	[会場：2階 丹頂]
12:50	開 会 式 司 会：伊藤俊文（酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校 教頭） 開会の辞 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 西 山 啓 一 開催地代表挨拶 北海道私立中学高等学校協会 会長 西 岡 憲 廣 日程説明等 閉式の辞	
13:20	研 修 1－講義① 司 会：伊 藤 俊 文 演 題：「私学の現状と課題」 講 師：西 山 啓 一 一般財団法人日本私学教育研究所 私立学校初任者研修等事業検討委員 学校法人同志社 理事	[会場：2階 丹頂]
14:50	休 憩	[会場：2階 丹頂]
15:05	研 修 2－分科会①：学習指導 講 義 自己紹介 グループ討議 助言者：右 谷 浩 立命館慶祥中学校・高等学校 校長補佐	
17:00	休 憩	[会場：2階 丹頂]
17:30	経験交流会 司 会：伊 藤 俊 文	
19:00		[会場：4階 平安]

第2日 8月9日(金)

9:00	研 修 3－分科会②：生徒指導 講 義 グループ討議 助言者：牧 野 秀 昭 星槎国際高等学校 副校長
10:45	[会場：2階 丹頂] 休 憩
11:00	研 修 4－講義② 司 会：伊 藤 俊 文 演 題：「求められる教師の姿～学習観の転換～」 講 師：村 田 尋 如 学校法人西野学園 教育顧問
12:30	[会場：2階 丹頂] 昼 食 [会場：2階 丹頂]
13:30	研 修 5－分科会③：学級経営 講 義 グループ討議 助言者：齊 藤 隆 作 札幌日本大学中学校・高等学校 副校長
15:15	[会場：2階 丹頂]
15:30	研修のまとめ－参加者アンケートの作成・提出等－
16:00	閉 会 式 司 会：伊 藤 俊 文 開式の辞 助言者講評 主催者挨拶 一般財団法人日本私学教育研究所私立学校初任者研修等事業検討委員 西 山 啓 一 修了証授与 一般財団法人日本私学教育研究所私立学校初任者研修等事業検討委員 西 山 啓 一 閉会の辞 [会場：2階 丹頂]

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】主催者を代表し、西山啓一・私立学校初任者研修等事業検討委員が「私学教育が日本の教育を支えている。密度の濃い研修としてもらいたい。」と挨拶した。西岡憲廣・北海道私立中学高等学校協会会長は「自校を深く掘り下げ、実り多い研修となることを願っている。」と述べた。

【講義】

①「私学の現状と課題」

西山啓一・一般財団法人日本私学教育研究所 初任者研修等事業検討委員／学校法人同志社 理事
公立学校と私立学校の大きな違いは、建学の精神＝創立者の思いがあることだ。私学はそれに基づいて教育理念や教育目標を打ち立てる。誇りを持って絶えず研究と修養に励むことが教員の使命だ。学校法人が設置するという設置者の違いはあるものの、日本では私学も公教育の一環とされている。しかし生命線とも言える自主性を重んじつつ、私学教育を実践していかなければならない。



西山啓一氏(講義①)

②「求められる教師の姿～学習観の転換～」

村田尋如・学校法人西野学園 教育顧問

学習観は「教える者が主体」から「学ぶ者が主体」へ転換しており、指導観は「何をどのように教えるか」から「生徒の資質・能力をどのように伸ばすか」へ転換している。学校にも、授業の改善・評価の改善・ICTの活用・指導観、学習観の転換が求められている。教育活動は、計画的で、意図的で、組織的な取り組みだ。初心を忘れずに取り組んでももらいたい。



村田尋如氏(講義②)

【分科会】

①「学習指導」右谷 浩・立命館慶祥中学・高等学校 校長補佐

子供たちにはやり抜く力(GRIT)、未来を拓く力、創造する力を身につけさせなければならない。広報活動ではターゲティングを明確にし、①立地②学力層③所得層の3つを意識する。生徒観や教育観は先生によって違う。どこで一致点を見出すのか目的地を示し、ゴールの設定はするがやり方は問わず、先生方が自由にすることが大切だ。



右谷 浩氏(分科会①)

②「生徒指導」牧野秀昭・星槎国際高等学校 教頭

生徒指導は教科指導との一体化が必要で、発達支持的指導が十二分にできているか、自分の言葉で伝えているか、信頼関係はあるか、生徒理解が深まっているか、生徒の状況を観察し教員同士共有しているか等が重要だ。社会が変わって指導内容が変わっても軸は変わらない。5年後10年後、生徒も教員も笑顔でいられるようにしていきたい。



牧野秀昭氏(分科会②)

③「学級経営」齊藤隆作・札幌日本大学中学・高等学校 副校長

担任としての最初の3日間は勝負の3日間、ここで1年の全てが決まる。保護者対応において重要なのは生徒との信頼関係が築けていることだ。クレーム対応では相手の気持ちに寄り添いながら、しかし不合理な要求は飲まない。トラブルも財産に、生徒に決めさせるというスタンスで、明るく元気に頑張ってもらえたら幸いだ。



齊藤隆作氏(分科会③)

【経験交流会】

駒井健一郎・札幌光星中学校・高等学校校長の乾杯の後、参加者は交流を深めた。

【閉会式】

研修会閉会式では西山氏が主催者を代表して挨拶した。



分科会の様子

参加者アンケートより

講義①「私学の現状と課題」(西山先生)

- 「自主性」という言葉が用いられていたように、私学特有の柔軟性をもって子供達の居場所作りに励みたい。子供の自己肯定感の低さは以前より問題視していたが、子供の長所や頑張りをたくさん認めていく方法以外にも教育の展開の仕方は探り続けていきたい。
- 「ポジティブな自己分析」が出来る子供達を育てるために、学校教育はどうあるべきか考えさせられる講義だった。
- 北海道の変化と今後について視覚的に考えることができた。今の子供の特徴は自分にも当てはまるので、経験値は少ないが生徒の気持ちには寄り添えると思う。現代の日本において、生徒を集める大変さを痛感した。どのような自主性・独自性に取り組んでいくかが大きなカギになる。

講義②「求められる教師の姿～学習観の転換～」(村田先生)

- 「ゼロから生み出すのではなく組み合わせる」という意識がとても大切である。教員としての言語化力の向上という話があったが、国語を適切に理解し表現する力を育てることに重点を置きつつ、ティーチングとラーニングのバランスを探っていきたい。
- なぜ今学校における学習スタイルの変化が求められているのかを理解することができた。評価については、「生徒にどのような力をつけてもらいたいのか」ということを念頭におく必要がある。時代に合った形で変革させ、情熱をもって教育に取り組みたい。
- 学習観の転換について体系的に整理する事が出来た。教師の資質・能力を磨き続けるために具体的な行動が提示されていて、わかりやすかった。
- 今、社会で求められている教師像は以前と比べて大きく変化しており、今後とも変化していく中で、常に研究と修行に励みアップデートしていく必要があることが分かった。

分科会 学習指導 (右谷先生)

- 学習指導で一番大切なことは、先生が主ではなく生徒が主だということである。対話を大切にする授業を意識したい。
- 中学受験は、親の受験と言われているようで、アプローチの仕方が勉強になった。「傾聴」を意識していきたい。
- 学校の3つの特徴と2つの魅力という内容は、入試広報活動などで短時間で説明しなければいけない際に役立つ。

分科会 生徒指導 (牧野先生)

- 「先生にとっては30～40人の生徒、生徒にとっては1人の担任」という言葉が心に残った。
- TPOに応じた指導、学年や担任との密接な情報共有をしていくことが非常に重要だ。
- 生徒の自己肯定感を上げるために、ほめることや認めることを増やしていきたい。
- 学校がしなくてはならない最低限のことが、生きて帰すということだと聞いて、自分が枝葉の部分ばかり気にして、根幹の部分が見えていなかったことに気付いた。

分科会 学級経営 (齊藤先生)

- 叱り方や褒め方について考え直すきっかけになった。担任としてどう対応するかを冷静に判断したい。
- 自分のクラスに、なってほしいイメージ、ルール、こだわりをしっかりと伝えることが重要だ。
- 生徒指導というと、どうしてもマイナスなイメージになってしまうが、生徒を育てるチャンスなんだということを忘れないようにしたい。
- 生徒の良さを引き出すために、深く関わり信頼関係を築いていきたい。
- 日頃からいかにクラスの生徒たちと信頼関係を気付いておけるか、ということが生徒指導に影響すると思う。